

先日、あるアットホーム訪問看護のご利用者(女性)が亡くなりました。

90歳を超える、大往生だったとご家族はおっしゃっていました。

数日後、訪問看護ステーション宛に主介護者だったお嫁さんよりお礼のお手紙をいただきましたのでご紹介させていただきます。

---

ご利用者について（訪問看護師より）

この方に出会ったのは約半年前のこと。転倒により寝たきりの状態となったことがきっかけで、在宅で生活するために主治医の先生がアットホームをご紹介くださり、訪問がスタートしました。当初は週に2回の訪問でしたが、1ヶ月も経たないうちに6cm程の褥創ができてしまい、訪問は毎日に変更になりました。

週3日は職員2名でお伺いし、シャンプーや足浴をさせていただきました。残りの曜日は1名での訪問でしたので、息子さんやお嫁さん、お孫さんのご協力を得て、二人三脚の訪問でした。

6cmもの大きな褥創を前にした時は、「これは完治しないかもしれないな。」と思っていました。が、みるみる褥創は小さくなり、ご本人の回復力には看護師一同驚かされました。

「延命処置はしない」とご家族で決めておられたので、ご本人、ご家族、医師、看護師等の共同作業で最期まで寄り添い、一緒にお見送りすることができたことは本当に良かったと感じています。

---

暑中御見舞申し上げます。

母が八月五日に永眠致しました。

老衰という診断名で、大往生でした。

約三年間、月二回の往診を受け、先生との信頼関係を基盤に、先生にはキーパーソンである私の最も身近なアドバイザーになって頂きました。

約十七年前、病院でMSWという仕事に携わり、延命治療に対する疑問を抱いておりました私は、万一、母を介護しなければならない場面に遭遇した時、在宅介護をと考えておりました。

主治医の先生の御推薦を受け、アットホーム様との御縁を頂き、優秀な看護師の皆様方の手厚く、適切な訪問看護を受けさせて頂きました事を、心より感謝し御礼申し上げます。

毎日、看護師さんと一緒に（現場監督とか言われ乍ら）母の褥創の処置・身体介護の場面を看守らせて頂き、一人の人間の生命の尊さと大切さを、身に沁みて感じさせられました。

この体験は私のこれからの人生において、大きな礎となり、心の支えになってくれる事と思います。

母の最後まで冷静に、平生と変わらぬ看護師さんの対応に接し、看護師さんのお仕事の偉大さに改めて気付かされました。

本当に永い間お世話になりありがとうございました。

御一人御一人に、御挨拶させて頂きたいと思っておりますが、なかなか機会もないかと存じまして、文面にて失礼申し上げます。

これからも皆様、どうか御身体を御大事に御仕事に御活躍されます様、心よりお祈り申し上げます。

我家の近くにお越しの節には、是非お立ち寄り下さいます様お待ち申し上げます。

母の亡くなる一週間程前、母と私の二人きりの時、母の手をさすってあげ、唇にそっと綿を水で湿らせあててあげている時、『うれしいよ、うれしいよ、ありがとうよ。こんな良い所でこんなに良くしてもらってありがとう。親が居てくれたらどんなに喜んでくれたやろ』と、優しく私を見つめ話してくれました。私は『おばあちゃんに、うれしいよと言ってもらったら、私も嬉しいよ。ありがとう』と言いました。私は、この母の言葉を耳にし、これで良かった。在宅介護で間違っていなかったんだと、心の底から安堵致しました。この母の言葉は、そっくりそのまま看護師の皆様にも伝えたかったのだらうと思い、文面に記させて頂きました。

看護師の皆様、ありがとうございました。

平成二十三年八月十五日